

<電子端末 垣根は低くなった> (100328 産経)

「「魔術のように革命的な製品を紹介することから、2010年が始まる」。(*iPad(アイパッド)について、) B5判サイズの雑誌とほぼ同じ大きさ。今、この電子端末は世界中のIT(情報技術)関係者から熱い視線を浴びている。▽インターネットや動画閲覧はもちろん、アイパッドは、デジタル情報として配信される電子書籍にも対応できる。▽だが、携帯電話メーカーにとって気が気でない面もある。通話機能がついていないことを除けば、アイパッドの機能はスマートフォンに似ている。携帯電話の領域を「浸食」する懸念もあるわけだ。▽米コンピューター大手のデル、中国のレノボもタブレットPCを発表するなど、にわかには活気づいている。▽・・・「タブレットPCは、携帯電話とパソコンの中間というスマートフォンに近いニーズの開拓が見込める」と話す。外資系PCメーカー幹部も、「携帯電話に絶対的な優位性はない」と挑発する。▽これに対し、携帯電話メーカーも表計算のようにこれまでパソコンが担った機能をスマートフォンに搭載するなど、“領空侵犯”に余念がない。▽電子端末同士の「垣根が低くなった」・・・ことで、顧客を奪いあう競争が激化するの**は必至の情勢だ**。・・・携帯電話の歴史で「2110年4月」は、重要な1カ月として語り継がれるかもしれない」

<電子書籍ってどんなもの> (100403 朝日)

「・・・Kindleの最大の特長は表示に「電子ペーパー」を使っていること。長時間見続けても液晶ほど目が疲れない特性を持っています。斜めから見ても画質に変化はなく、紙に近い見た目です。画面表示に電力をほとんど使わないため、バッテリー動作時間が1~2週間と非常に長いのも魅力。他方、現状ではカラーや動画表示はできません。▽・・・米国では30ドルで売られるハードカバーの書籍が、10ドルで売られることが多くなっています。文字のサイズも自由に変えられ・・・米国では電子書籍リーダーに対する購入者の満足度は非常に高くなっています。▽(*iPadについて) 携帯電話「iPhone」を大型にしたような外観で、液晶を使っている点などは純粋な電子書籍リーダーとはいえません。リビングで雑誌を読む感覚でネットを利用する機器といったところです。しかし米国ではアップルが電子書籍ストア「iBook Store」を用意し、電子書籍が積極的に販売されていることから、ビジネスが加速するとみられています。小説を長時間読むならKindle、雑誌やコミックのようなカラーを重視する本はiPadに向く、とされています。▽・・・将来的には携帯電話からパソコンまでの多くの機器で同じ電子書籍が読めるようになると思われることから、大きな注目が集まっているのです」

<本購入には「負債リスク」> (100428 毎日)

「・・・本を買っても、それはいわば頭金を払っただけ。「自分の時間」という最も高価なローンの支払い**は済んでいない**。本棚に並んでいる未読の蔵書は財産ではない。「読書時間という未払いが残っている負債」だ。「この本まだ読んでいない」という後ろめたさ自体も負債なのだ。▽日本の土地代は世界最高水準だから本を置く場所=家賃だってバカにならない。集めれば部屋が狭くなる。集めすぎると床が抜ける。▽本は買う時間をもっとも読書モチベーションが高い。それを逃すと、どんどん読む気が減少する。・・・ある本を読みそびれて数カ月もすると新版が出る。買ったけど読んでない本は「時代遅れの本」になってしまうのだ。・・・「読んでない本は不良債権」という時代。いま本を買う人は、この負債を背負う覚悟のある、よっぽど読書が好きな人だけになってしまった」(岡田斗司夫)

<電子書籍 出版システム変える可能性> (100407 産経)

「(*電子書籍について)日本国内の市場規模を調査している「インプレスR&D」によると、平成14年度にわずか10億円だったのが、20年度には464億円にまで拡大。今後も大きな成長が見込まれている。▽しかし、そのうち86%は携帯電話で読まれ、大半がコミックとされている。このため、一般書の普及には懐疑的な声も聞こえてくる。▽・・・従来の出版システムでは、紙代や輸送費などがかかるが、電子書籍ではそれらのコストが不要。本の価格を下げた上で、利益率が上がる可能性もある。▽電子書籍ブームを牽引するKindleは2007年に米国でデビューし、今や日本を含む100カ国以上で販売されている。・・・Kindleとリーダーで2強を構成する米国のシェアが、iPadの参戦で大きく変動するのは**確実な情勢だ**。iBookstoreの日本でのサービス開始時期は未定という」